

皆様、こんにちは。

まず始めに、私がマイ・オンコロジー・ドリームプログラムで表彰いただいたことに対して、幸せと感動と名誉を感じていることをお伝えいたします。

今から少しだけお時間をいただき、今回の機会が私にとってどのような意味があるのか、そして私がこの素晴らしいプログラムを通じて身に着けた知識と経験を活かして、計画していることをお話しさせていただきます。

また、私の夢を実現するために、今回の機会を可能にしてくださいました MD アンダーソンがんセンターの医師、日本対がん協会、アメリカの日本大使館に対して、改めて感謝の意を申し上げます。

私はいつも患者さんに対する総合的なケアがいかに大切であるかということを考えてきました。

また、がん治療とがん治療のマネジメントを改善するためのアイデアを複数、いつも持っておりまして。

そして MD アンダーソンがんセンターでのキャリア開発ガイダンスを通じて、私のキャリアゴールと計画をしっかりと磨き上げることができました。

日本のがん治療のレベルは高いですが、アメリカの治療レベルが依然最高レベルです。

私のゴールと期待をお話しさせていただきます。

まず初めに強く申し上げたいのは、常に増え続けているがん患者数に対して、多くの専門分野にわたるケアチーム(マルチケアチーム)で活動できるがん専門医を育成することです。それを率先し進めるために、私自身が専門的かつ魅力的ながん専門医になり、ケアチームのメンバーを盛り上げる必要があります。

チームのメンバーには自信を持たせ、自分自身が日本のがん治療を徐々にではなく、飛躍的に改革するリーダーになりたいという意思を持っていただく必要があります。

私自身、真のリーダーというのは地位が作るものではなく知識・スキル・経験が作るものと考えようになり、その考えが私のモットーとなっております。

私の団体にいるマルチケアチームは、治療方法とサポートケアの申し込みのため EBM を開始しましたが、それらの活動は"Liquid Leadership"に基づいております。

各専門家たちはそれぞれの分野に関連したタスクのチームリーダーとなり、誰もが会議で自分の考えを説明することができます。

また、私たちはがん患者に関するコミュニティの認知度をどうやってあげるかについても、議論を始めました。

たとえば、MD アンダーソンがんセンターで成功したように、子供のアートに関するプロジ

ェクトを始めたいと思います。

それは小さな一歩ですが、最終的には大きな違いを生み出します。

私は自分の団体の中で、遺伝に関するカウンセリングとサバイバーシッププログラムを行うコミッティーも立ち上げました。

この 5 年間の中で、モデル病院となるように設備と運営を改善したいと思います。そして北海道のがん患者のためによりよいケアを進めてまいりたいと思います。

私はできるだけ早く患者のケアを改善したいと思っておりますが、それは時間がかかるものであることもわかっております。

現実的には、この努力が実を結ぶのに 10 年くらいかかると思っています。

臨床試験の増加と、がん専門医の能力が最新の開発と関連する基礎科学についていけるようになることが、レベルの高い個別治療をもたらし、患者の生活レベルを著しく改善するでしょう。

また、私は様々な医療団体間の連携を加速させ、若いがん専門医たちが重要な情報に簡単にアクセスできて、国際医療コミュニティで議論できるような情報共有基盤のようなものを作りたいと考えています。

このようなすべての取り組みが、がん患者に対してより親しみやすい社会を作り、それが世間一般やプライベートな支援に広がることを可能にします。

私の大きな夢は、日本からがんをなくし、世界からがんをなくすことです。

そのために私の人生を捧げるつもりです。そして、このもっとも大切な目標を勝ち取ることに情熱を注ぎます。

ありがとうございました。

(和訳：井上ちほ)